

赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311 一部20円

5 May 2009

Vol.828 <http://www.jrc.or.jp>



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

社員の輪 広げて 救おう 命の輪

5月は赤十字運動月間

コインに思いを託し、あなたも日赤社員に

一緒に増やしたい「ありがとう」のことは

5月は「赤十字運動月間」です。全国各地で社員募集の呼びかけをし、支援の輪を大きくする活動に全社で取り組んでいます。社員でない方は社員にご加入ください。すでに社員である方は継続をお願いします。一人でも多くの方が社員に加わっていただくことで、赤十字はより大きな力を発揮できます。

一年間500円から協力を

日本赤十字社は、日本赤十字社法で「社員をもって組織する」と決められています。この「社員」は日赤で働く職員のことではありません。赤十字の理念と活動に賛同し、年間500円以上の資金協力をしていたたく方のことです。

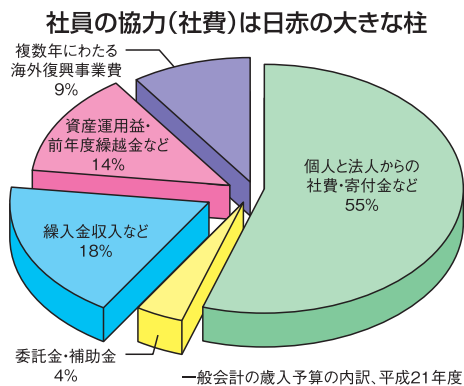


てくれた小学校2年生の吉田明日香ちゃん(右写真)も社員の一人。女優の藤原紀香さんもおつかいから寄付を寄せ、なんと3度目の社員加入です。



女優の藤原紀香さんは社員3年目。赤十字広報特使として今年3月にケニア共和国を訪れました。ケニア赤十字社は日本赤十字社の支援で保健衛生サービスの向上に取り組んでいます。社員から寄せられた善意は、遠く離れたアフリカの地でも、命と尊厳を守る活動に役立てられています。

(特集記事を3・4面に掲載)



こうした一人ひとりの善意で成り立っていることで、日赤は政府から独立した民間組織としての自主性が尊重され、中立の立場での活動が保証されているのです。

5月と赤十字の深い関係

「傷ついた兵士は、もはや兵士ではない。人間である。人間同士としてその尊厳を救わなければならない」この赤十字思想を生んだアンリ

・デュナン氏の誕生日が1828年の5月8日。そして日赤の前身である、博愛社の発足も1877年5月1日です。日赤では5月を運動月間

災害への備えに活用

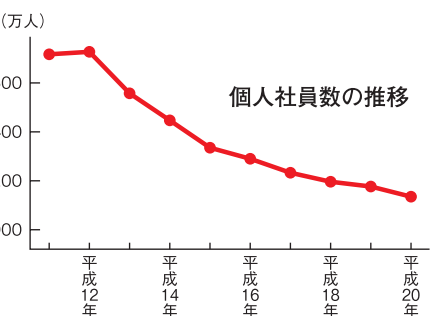


- 毛布1枚1,200円程度(傷病者の保温などに)
 - 安眠セット2,200円程度(避難所生活で使うマットや枕、アイマスクなど)
 - 緊急セット3,700円程度(タオル、歯ブラシなど日用雑貨と携帯ラジオ、懐中電灯など)
- ※救援物資や仮設診療所(dERU)は、皆様からいただいた社費に加えて、それぞれ財団法人JKA(競輪とオートレースの振興法人)や国の補助を受けて整備しています。

日赤はどんな活動を?

皆様から寄せられた資金は日本赤十字社の活動を支える資金として、日本と世界で人々の命や健康、尊厳を守るさまざまな事業に役立てられています。国際活動では、2004年のスマトラ島沖地震・津波災害などの被災地支援を継続。国内では、被災者に配られる毛布などの救援物資や移動式の仮設診療所(dERU)の整備などにも使われています。

とし、社員の輪を広げる活動に毎年取り組んでいます。紛争や自然災害、貧困などの困難に直面する人々は世界に大勢います。今こそ、赤十字の出番です。



マンションなどでの直接的な呼びかけが難しくなり、個人社員は年々減少する中、日赤では加入方法を増やすなど、さまざまな変革に取り組んでいる

社員になるには

赤十字ボランティアや自治会などが配付する寄付申込用紙の「社員として、社費に協力する」の欄にチェックをつけて下さい。社員加入申込書(ホームページから印刷できます)をお送りいただくと、預金口座振替での社費納入も可能です。詳しいお問い合わせはナビダイヤル

0570-009595
日本赤十字社ホームページ
www.jrc.or.jp

表参道

街が赤十字を プロモート!

5/1~14

- 表参道通りの中央にたくさんの国旗と赤十字旗、両側にキャンペーン記念旗を掲揚
- ラルフローレン表参道店(渋谷区神宮前4-25-15)前をラッピング
- 店頭大型スクリーンで赤十字のビデオ放映

5/1~31

- (社)日本看護協会(渋谷区神宮前5-8-2)脇の階段をラッピング。(右写真)5月7日夕方から8日の未明にかけては看護協会のビルの一部を赤色にライトアップ

5/8~10

- 街頭イベントでアートパフォーマンス(女子美術大学生による、9・10の両日で)、AED(自動体外式除細動器)のデモンストラーションなど
- メッセージカードを配布

5/8~31

- (社)日本看護協会、日本赤十字社と赤十字国際委員会共催の写真展を日本看護協会ビルで開催(14日からは平日のみ)

一人ひとりが 現代のアンリー・デュナンに

赤十字思想誕生150周年



人間を救うのは、人間だ。Together for humanity



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

東京・表参道で多彩な催し

今年には赤十字思想誕生150周年です。「戦場の傷病者は敵味方の区別なく救済すべきだ」という赤十字思想は、1859年6月、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで、救護活動にあたったスイスの実業家アンリー・デュナン(1828-1910年)によって、提唱されたものです。こうしたデュナンの活動は世界平和への貢献が認められ、第1回ノーベル平和賞(1901年)を受賞しました。国際赤十字は今年、「Our world. Your move.」というメッセージを発信。一人ひとりが現代のデュナンとなって、今日の人道的な課題に対して、身近で具体的な取り組みを行うよう呼びかけます。

日本赤十字社もこの機会に、多くの方が赤十字を知り、赤十字運動に参加するきっかけとなるよう年間を通じて様々なイベントを計画しています。

5月には赤十字運動月間と全国赤十字大会に合わせて、多くの人が出でにぎわう東京・原宿の表参道で多彩なキャンペーンを展開します。

次代担う子どもたちの成長を願って

児童福祉週間(5月5日~11日)

児童虐待や学校でのいじめなどが社会問題になっていいます。そんな中、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に、第63回「児童福祉週間」がこどもの日の5月5日から11日まで実施されます。

厚生労働省、全国社会福祉協議会、財団法人こども未来財団の主唱するもので、日本赤十字社も協力団体として参加。全国の各自治体では、児童福祉の理念の普及・啓発のためのさまざまな事業や行事が行われます。

今年の標語は「ありがとう つたわることが、うれし いよ」。神奈川県玉田雄以

さん(34)の作品で、全国から応募のあった4535作品の中から選ばれました。期間中には、保育所の子どもたちと大相撲力士らによる「こいのぼり掲揚式」(厚生労働省正面玄関広場)や、優れた児童福祉作品に贈られる児童福祉文化賞の表彰式なども行われます。

乳児期の子育てを通して地域の方々と交流を行い、年間を通じて児童福祉の取り組みを実施しているのが今春から新しい建物に移転した松江赤十字乳児院(島根県)です。離乳食の献立カードを配った



「お父さんにも作ることができた」などの反響があり、島根県からは「子どもたちの心と身体を豊かに満たす一助になる」との期待も寄せられています。

これらの経験から松江赤十字乳児院では子育ての冊子を作成。相談の多い食事や看護、子どものかかわり方、遊びなどを紹介しています。

もう一つ力を入れているのが地域の親子の交流活動です。平日の午後、乳児院のプレイルームを開放し、交流の場を提供したり、育児サークルを週1~2回開催。乳児の食事や成長、遊ばせ方などのテーマで話し合いをしています。

松江赤十字乳児院の家庭支援専門相談員・杉谷桂子さんは、「少子化と核家族化の進行で子育てはより地域で支えることが必要です。乳児院は乳幼児とその親たちの子育てを支援することに力を入れています。ぜひ一度遊びに来てほしい」と話しています。

井上忠男(日本赤十字秋田看護大学教授)



赤十字思想のルーツを探る

① Humanityの世界デビュー

今年には赤十字思想の誕生から150周年だそう。赤十字の根幹思想は、人間的な根幹思想であるといえる。赤十字思想(Humanity)であるといえる。赤十字思想は、150年前に突然生まれ、それはどういったことなのか。今から4回シリーズで、この辺の話をしてみたい。

「Humanity」の語源は、古代ローマの哲学者キケローが「弁証家論」の中で最初に用いた「Humanitas」(フマニタス)に由来するといわれる。それは必ずしも今日のような人間愛の意味ではなく、単に「人間らしさ」といった程度の意味で使われた。むしろ人間愛の概念に近いのは、同じキケローの造語とされる「philanthropy」(博愛、同胞愛)直訳では「人間を愛する」の意の方だったかもしれない。もっとも、日に再び光を当てたのは、中世ヨーロッパのルネサンス期の人間性への回帰を唱えたフマニスム(人文主義)である。フマニスムの語源は、唐の韓愈(768-824)による「原道」の冒頭「博く愛する之れを仁と謂い、行ひて之れを宜しうする之れを徳」と呼ばれた人達でした。この時代のフマニスム(英語読みだとヒューマニズム)とは、一般的には、(神や自然を崇拝するのではなく)人間を中心にものを考える人間中心主義とも言うべきもので、赤十字思想としての人間愛、隣人愛をそのまま意味するものではなかった。

しかし、既にこの頃、イタリアの詩人学者ペトラルカは、フマニタスの語を隣人愛や同情心の意を強く込めて使っており、これが今日の「Humanitas」人間愛(人道)といった用語法の萌芽と見ることができるともいえる。

しかし、既にこの頃、イタリアの詩人学者ペトラルカは、フマニタスの語を隣人愛や同情心の意を強く込めて使っており、これが今日の「Humanitas」人間愛(人道)といった用語法の萌芽と見ることができるともいえる。

(つづく)

赤十字を胸に世界へ 飛び立つ日を夢見て

1688人が全国の 赤十字看護教育施設等に入学



大阪赤十字看護専門学校であいさつする新入生代表

日本赤十字社の看護大学、大学院、短大、助産師学校、看護専門学校でこの4月、入学式が行われました。全国で1688人の新入生が医療従事者をめざします。

大阪赤十字看護専門学校では4月10日、102回目の入学式が行われ、49人が看護師を目指して3年間の新たな生活をスタートさせました。

あいさつに立った本田孔士(こうし)校長は、「常に学んだことを現場で実践できる看護師を

目指してください」と激励。新入生を代表して佐藤希望(のぞみ)さんが、「向上心をもって日々努力することを誓います」と宣誓しました。

同校は、これまでに約6000人が卒業し、医療現場の最前線で看護師や保健師、助産師、養護教諭、看護学校教員などとして活躍しています。また赤十字の国際救済スタッフとして、世界各地の被災地などでも活動しています。



毎年来るハリケーンに備えて防災活動を行うパナマ赤十字社のスタッフと現地の子ども© IFRC

第88回昭憲皇太后基金

4支援事業に決定 途上国の災害対策、血液事業などに

第88回昭憲皇太后基金の支援事業とその事業資金の配分が決まりました。赤十字国際委員会と国際赤十字・赤新月社連盟の代表で構成する基金

今回の配分先と対象事業

- 1、カザフスタン赤新月社(ヨーロッパ) 会計システムと制度の改善(約440万円)
- 2、コモロ赤新月社(アフリカ) 献血の推進(約440万円)
- 3、パナマ赤十字社(アメリカ) 地域社会における災害予防・災害対策プログラムの実施(約327万円)
- 4、マルタ赤十字社(ヨーロッパ) 移民に対する語学研修・異文化適応プログラムの実施(約97万円)

管理合同委員会が、昭憲皇太后命日の4月11日に毎年発表しているものです。

今年、コモロ赤新月社が行っている献血推進事業をはじめ、4カ国の赤十字社・赤新月社の事業に対し、総額14万8252スイスフラン(日本円で約1304万円)が贈られます。

この基金は、開発途上国への支援を目的とした基金の中では、日本で最も歴史があります。明治45(1912)年にワシントンで開かれた「第

9回赤十字国際会議」で、明治天皇の皇后である昭憲皇太后が国際赤十字に対して10万円(現在の価値で約3億5千万円)を寄付したことから始まりました。

基金を支えているのは、主

旧日本赤十字社救護看護婦等に対する 書状贈呈事業についてのお知らせ

先の大戦において戦地等に派遣され、戦時衛生勤務に服された旧日本赤十字社救護看護婦及び旧陸海軍従軍看護婦の方々のうち慰労給付金受給対象とならない方に対して、そのご苦労に報いるため内閣総理大臣名の書状を贈呈しています。

書状の贈呈は、請求に基づいて行っています。請求される方は、総務省大臣官房総務課管理室へ直接請求書類を送付してください。請求書の用紙は、同管理室のほか、各都道府県および日本赤十字社各都道府県支部に用意してあります。

1、請求することができ方
外地における勤務経験を有し、加算年を含めた勤務期間が12年未満の旧日本赤十字社救護看護婦及び旧陸海軍従軍看護婦であった方。
但し、「慰労給付金を受給されている方」及び「すでに

に皇室をはじめとする日本からの寄付金です。日本赤十字社は毎年同基金に資金拠出を実施しており、本年は約2500万円を支援しています。

開発途上国の赤十字社・赤新月社が取り組む血液事業や災

害予防・対策、移民に対する支援事業などに活用されています。第1回から今回までの同基金の支援事業への配分は、1211万6926スイスフラン(約10億6630万円)になりました。

常任理事会開催報告

平成21年4月17日、本社において平成21年度第1回の常任理事会が開催されました。

今回の常任理事会は年度初めでもあり、付議事項はありませんでした。日本赤十字社の救急法等講習普及の取り組み、予算の補正にかかる3月分の社長専決事項の決定状況などについて、それぞれ報告しました。

内閣総理大臣の書状を受けている方」は対象となりません。

2、請求期限
平成23年3月31日まで

3、請求書類の送付先及び問合せ先
82(直通)
FAX 03-5253-1519
T100-8926

東京都千代田区霞が関2-1-2
総務省大臣官房総務課管理室
業務担当
電話 03-5253-5182(直通)
FAX 03-5253-1519

災害が起こったときに

第10回

知って役立つ技術～足浴～ 身近なものを利用して疲労回復を

災害時高齢者生活支援
講習ハンドブックより

避難所生活では、自由な行動が制限されるので、疲労がたまりがちに。就寝時になかなか寝つけないケースもあります。そんなときは、身近な物を利用した足浴が効果的。足を温めて血行がよくなると、疲労回復や入眠効果が得られます。

〈準備品〉

- ダンボール箱、発泡スチロール箱、バケツなどの容器
- 毛布、座布団など(床や畳の上で行う場合)
- バスタオル
- ビニール袋
- お湯(40℃程度)
- 入浴剤(あれば効果的です)

1 ダンボール箱や発泡スチロールなどの容器をビニール袋で覆います。

2 床がぬれないようにバスタオル

を敷き、容器を置きます。

3 足を入れたときにあふれない程度の量のお湯をそそぎます。入浴剤があれば適量を混ぜましょう。

4 足を入れてリラックス

●床または畳の上の場合



毛布や座布団などを利用して、腰の高さを調整します。お湯をはる容器は高さの低いものを使いましょう。後ろに壁がある場所だと楽にできます。

●椅子などに腰掛ける場合



椅子がない場合は、階段などの段差も利用できます。

ケニアからのレポート

ケニアの子どもたちを救おう

日本赤十字社とケニア赤十字社のIHOP事業 (Integrated Health Outreach Project)



移動診療所で助産師へ出産までのアドバイスや薬の説明をする五十嵐職員

日本赤十字社ケニア駐在員
五十嵐真希

2008年8月から
首都ナイロビ駐在

事業地のイシオロ・ガルバチュラ村には、月に1回、1週間から10日程度の日程で訪問しています。現地スタッフやボランティアの方とともに、事業の進み具合や問題点を点検。地域で求められている支援内容などについて意見交換を行うのが目的です。

公共の交通手段や電気、水、通信などがほぼ皆無のイシオロでは、乾季の栄養失調や雨季の感染症流行で、多くの人、特に子どもたちが妊婦の方が日々命を落とします。

一人でも多くの命を救いたい

地域保健衛生水準を高め、ケニア赤十字社のボランティアによる地域住民への健康や水の衛生に関する正しい知識の教育です。なぜならば、住民自身が村の問題点を理解した上で、彼ら自身の判断と意志により習慣や行動を変えていくことが大切だからです。それなくしては、事業終了後に、良い衛生習慣が根付くことはないと思っています。

2年目に入ったIHOPの事業ですが、IHOPのメンバーやボランティアが村々で広く認識されるようになりました。そして、村では大きいお姉ちゃんが小さい子に手の洗い方を教えている姿なども見

一人でも多くの命を救いたい

かけるようになっていきます。少しずつ何かが変わってきています。

ここケニアにも赤十字の仲間がたくさんいます。そして、みんながみんなのためにと考えて活動しています。そんな仲間の中で活動し、子どもたちから笑顔と「ありがとう」という言葉をもらったとき、自分のいまやっていることが間違いないと実感できます。そんな人と人とのつながりが赤十字の魅力です。

今回、広報特使藤原紀香さんがケニアを訪問し、ここで見て体験したことを日本に発信することで、新しい人と人とのつながりがききと生まれると思います。そして、そのつながりが、またこの場所に、形は違ってもよいけれど、戻ってきたら素敵だと思えます。

過酷な環境の中のチャレンジがボランティアとの連携を強化し、地域住民の意識を高め、一人でも多くの小さな命を救えるよう、がんばっていききたいと思います。



小学校で将来のことや夢について絵を描いてもらいました (イシオロ)



腕の太さを測る栄養失調度測定状況に応じてヒタタシを渡す。診察を受ける人からの声援が、私を勇気づけてくれた。そして、お姉ちゃんが小さい子に手の洗い方を教えている姿なども見

支援が人々の行動を変えた エスコット村

3月22日に訪れたのはエスコット村。ここでは移動診療の支援に取り組む日本赤十字の職員が、十分な栄養を食べているかどうか子どもたちへ移動診療は1カ月に1回、診察を受けた人からの声援を受けている。お姉ちゃんが小さい子に手の洗い方を教えている姿なども見

病院がない 妊産婦にとって過酷な現実

高層ビルが林立し、観光客を迎える外資系ホテルも多い首都ナイロビ。そこから北東へ約400キロメートル、車で8時間ほどのところに、日本赤十字社が地域保健強化事業を展開しているイシオロ地域があります。

「命の重さはどの国でも同じだとしても強く感じました。赤十字広報特使として、ケニアでの体験を日本の皆さんに伝えたい」。藤原さんの目に映ったケニアの人々と日本赤十字社の取り組みを紹介します。



村に病院がないため、赤十字の車両で町の病院に運ばれ無事出産。赤十字に感謝し、レッドクレセントちゃんど命名

「ダンサ」は最高級のありがとう タナ村

この地で取り組まれているIHOP事業は、地域保健員を通じて保健教育の実施や保健医療施設との連携の整備などです。薬剤を塗った蚊帳の配布や地元保健員が行う移動診療への支援も行われています。



数キロ先の水を汲むためにタンサをロバに積む村の女性

日本とケニアの距離が縮まった

広報特使として 日本の方に伝えたい



雄大なケニアの大自然 日本赤十字社が派遣された広報特使として、日本の方に伝えたい

日本赤十字社がイシオロで行う主な支援活動

- ・地域保健員、ケニア赤十字ボランティアを通じて地域保健教育と健康促進
- ・地元保健省が行う移動診療への支援
- ・薬品散布済の蚊帳の配布と利用方法の徹底
- ・衛生知識・救急法の普及と保健医療施設への搬送
- ・地域の保健医療施設への通信網の整備
- ・出産と5歳未満児の生存に必要な医療資機材の提供
- ・ヘルスセンター／診療所への水供給・排水システムの整備
- ・事業実施に必要な人材の育成

ケニア共和国

アフリカ東海岸に位置するケニアは赤道直下の国です。国土は日本の約1.5倍、平原地帯のサバンナにはライオンやキリン、象などの野生動物の王国が広がります。経済的にはここ数年高い成長率を記録して、東アフリカで最大の経済力を持つ国になりました。しかし、地球温暖化の影響からケニア国土は、干ばつと洪水という自然災害に頻りに襲われるようになっています。平均寿命は51歳で、65%の人はHIV/AIDSや肺炎、結核、マラリアなどの感染症で命を落とします。乳幼児死亡率の高さだけでなく、妊産婦死亡率も深刻な状況で、出生10万例に対して1,000という水準。これは日本の妊産婦死亡率の200倍以上です。

イシオロの保健衛生

イシオロの推定人口は約40,000人余り。慢性的な洪水と雨季の洪水により、食糧不足や感染症疾患の蔓延リスクにさらされている地域です。安全な水の供給率は、イシオロを含む東部プロヴィンซ์全体で54%足らず。都市部の89%に比べる差は歴然です。水不足は衛生的な生活環境を阻害し、下痢などの疾患から栄養障害を引き起こします。イシオロの調査によると、乳幼児の2%、ナイロビは19%が中程度の栄養不足状態。幼児死亡率は出生1000に対して118で、幼児死亡の主要原因の一つマラリアの患者数は増加傾向にあります。

IHOP事業

新生児特有の病状による5歳未満児の疾病と死亡をマラリアなどの感染症を減らすことが目標です。地域保健員とケニア赤十字社のボランティアを軸にした住民ネットワークを強化することで、保健医療サービスへのアクセス向上を図り、目標を実現していきます。ケニアの中でも最も脆弱な地域の一つであるイシオロを対象に、平成19年11月から5カ年の計画でスタートしました。現在、日本赤十字社から五十嵐職員が派遣されています。

東京

新入職員はげます 患者さんの歌声

うと結成されたグループです。コロナスを通じた生き甲斐づくりが活動の目的です。会員は同病院の患者さんと元患者さんで現在32人。がんや肝炎、糖尿病などの慢性疾患を抱えた方も少なくありません。

月一回の練習を重ね、病院内で年末に開催されるクリスマスコンサートや小学生のマスコットや小学生の子どもたちを招いたコロナスイベントなどを企画しています。

入社式での歌声を聞いた新入職員からは「患者さんのコロナスグループがあるなんてビックリしました」「元気な歌声にはげまされました」などの感想が出されました。

武蔵野赤十字病院の入社式が4月1日、日本赤十字看護大学武蔵野キャンパス講堂で行われ、同病院の患者さんでつくるコロナスグループ・ドリームが「武蔵野赤十字の歌」を披露しました。

ドリームは6年前の3月、病を抱えている人が楽しく過ごせる場所を病院の中に作る



入社式で歌声を披露するドリーム

未来担う子どもたちキラリ

「夢のたまご」 育成のために 日赤医師も 一役

岐阜

岐阜県飛騨市のやまびこ館で3月28、29日に開催された「夢のたまご塾・飛騨アカデミー2009春セミナー」に、高山赤十字病院の竹中勝信医師が講師として参加。子どもたちに病院の仕事などについて講演しました。

「夢のたまご塾」は、全国



夢のたまご塾で講義する竹中医師

の中・高校生を対象に「自ら学び、自ら考える」力を身につけてもらい、次代を担う人材に育ててもらおうというセミナーです。飛騨市民有志の実行委員会がノーベル賞受賞者・小柴昌俊さんを名譽総裁に迎えて毎年2回、合宿形式で開催しています。

講師として参加した竹中医師は高山赤十字病院脳神経外科の遺伝カウンセラー専門医です。「チーム医療とオーダーメイド医療をテーマに、病院での仕事や遺伝子などについて、参加者の中学生にユニフォームを交えながら講義を行いました。

竹中医師は、「自分自身も子どもたちと接するのを毎回楽しみにしています。参加した子どもたちが夢を育み未来を担う人間に大きく成長してほしい。また、医療の分野に興味を抱いてもらえたらうれしいですね」と感想を述べています。

高校文化祭で チャリティー バザー

福岡

福岡県立修猷館高等学校で3月21、22日、文化祭が行われ、同校JRC(青少年赤十字)部のメンバーがチャリティーバザーを実施しました。

他校の高校生JRCメンバーも見学に訪れ、お互いの活動を交流しました。

バザーでは、衣類や食器類、メンバー手作りのピズ製携帯ストラップなどを出品した



歌にあわせた手話を披露するJRC部メンバー

ほか、赤十字活動について書かれた手作りポスターや地雷模型などを会場に展示。ステージイベントでは、歌にあわせて手話で歌詞を表現する「しゅわった」を披露しました。

JRC部メンバーからは、「チャリティーバザーは、出品したり購入することで社会貢献に参加できて、とても良いものだと感じました」「しゅわったを見てもらうことで、多くの人に手話を身近に感じてもらうと思います」などの感想が出されました。



後、園児の名前が1人ずつ紹介され、保育園での新しい生活がスタートしました。

同保育園では、「さかえつよい子、やさしい子」を保育目標としていて、4歳児以上の園児がJRCに加盟しています。「誰かのために何かできること」が赤十字活動に参加する狙いです。

青少年赤十字 の加盟保育園 で入園式

北海道

青少年赤十字(JRC)のメンバー校である釧路さかえ保育園(園長孝子)で4月1日、入園式が行われました。

新入園児18人は新しい保育園での生活にドキドキの様子。園長が「新しいクラス、新しい先生、新しいお友達と仲良く元気に遊びましょう」とお祝いの言葉を述べた

新年度を迎えた4月1日、新潟県糸魚川市内の公立、市立のすべての幼稚園、保育園(全27園、1400人)が一



いずみ保育園での登録式

長が、「子どもたちは糸魚川の宝。いい環境の中で育ててほしい」とあいさつ。また、各園の登録式には青少年赤十字賛助奉仕団のメンバーが出席して、子どもたちにメッセージを届けました。

陸でも水中でも救急法講習会

人命救助は幹部職員が率先するぞ!

千葉

千葉県支部は3月22日、浦安市の幹部職員を対象とした救急法基礎講習会を開催しました。

千葉県支部は3月22日、浦安市の幹部職員を対象とした救急法基礎講習会を開催しました。



AEDの使用法を学ぶ市職員

この講習会のテーマは「幹部職員が防災の要に!」。大

地震などの大規模災害時には幹部職員も災害現場での人命救助にあたることのできるように、と浦安市が主催したもので、同市の次長級以上の職員が対象です。

千葉県支部浦安市地区長である松崎秀樹市長をはじめとする37人の幹部職員が受講し、AED(自動体外式除細

動器)を用いた救命措置などを学びました。

千葉県支部と浦安市では、今回受講した幹部職員を対象とした救急員養成講習会の他、全職員を対象とした基礎講習会についても引き続き実施していく予定です。

水の事故防止 に水上安全法 救助員養成

広島

広島県支部は3月11日から13日の3日間、広島工業大学



溺れた人の救助法を学ぶ参加者

(広島市佐伯区)のプールで、赤十字水上安全法救助員養成講習会を開催しました。プール監視員やスイミングインス

トラクターなど、水に関わる仕事に携わっている人々を含む27人が参加し、水の事故防止や溺れた人の救助方法について学びました。

実習では、普段の水泳であり使っていない逆泳や立ち泳ぎなど水上安全法独自の泳法に参加者が戸惑う場面も。講義後は「泳ぎながら救助することの難しさが理解できた」「プール監視業務に大変役に立つ」などの感想が寄せられました。

生き生きエリア活動

開設1年で献 血者4万人!

神奈川

横浜駅東口クロスポート献血ルームではオープン1周年となる3月14日、開設以来4万人目の献血者を迎えることができました。

この日は、横浜ベイスター

4万人目となった献血者を囲んで

スや横浜F・マリノスのキャプテンやチャリアーダーチームも参加した1周年記念イベントを横浜駅で開催。その最中に4万人目の献血者誕生となったものです。

稲葉領一・神奈川県赤十字血液センター所長は「記念すべき日に4万人を達成できたことに驚きと感動を受けている。ご協力いただいたすべての方に感謝します」と話し、今後のさらなる協力を訴えました。

善光寺参りに 万全の体制で 挑む

長野市の善光寺で4月5日から始まった御開帳に合わせ、日本赤十字社長野県支部では善光寺御開帳臨時救護所を開設しています。



救護の任につくメンバー

までの57日間に全国から60万人以上の参拝者が見込まれています。

臨時救護所は善光寺御開帳奉賛会から要請されたもの。急病人やけが人に対応するため、期間中は長野赤十字病院の看護師1人が常駐しています。週末および祭日には多数の参拝者によるアクシデントの可能性もあるため、長野県赤十字救護隊の防災ボランティア数人も救護に控えます。

前回は(平成15年)には、取り扱った患者数約300人、救急車出動10回を数えているので、メンバーは気を引き締めています。

感謝の巨大な 周年をPR

今年で創立120周年を迎



旧看護寮に掲げられた垂幕

えた長野県支部では、支えていただいている県民に感謝の気持ちを伝えるため、支部敷地内に「おかげさまで創立120周年」懸垂幕を掲げました。

長野県支部の創立は明治22(1889)年4月。120周年を記念して支部では、支部災害救援車両や献血バスにもマグネット版を掲示し、県内各地域を巡回しながら、県民への感謝と今後のご協力を呼びかけています。

イベント案内 in 神奈川

「みんなの広場 赤十字フェス ティバル」開催

赤十字支援への感謝を伝えるとともに、楽しみながら赤十字への理解を深めてもらうイベント「みんなの広場 赤十字フェスティバル」を5月9日の土曜日、横浜駅新都市プラザで開催します。

今年のテーマは、「赤十字思想誕生150周年」。赤十字の歴史・活動をパネルや映像を織り交せて紹介する他、救命手当体験(心肺蘇生法・AEDの使い方)、点字体験・視覚障害者の誘導体験などのコーナーも。目で見、触



神奈川県支部と神奈川県赤十字血液センターでは5月8日の世界赤十字デーにあわせ、横浜ベイスタジアムの本拠地「横浜スタジアム」に赤十字ブースを展開！

つて感じていただく体験型のイベントです。

この催しは横浜ベイスタジアムの協力でされるもの。ブースでは、AED・救急法のデモンストレーションを中心に「世界赤十字デー」や赤十字事業などのPRを予定しています。

午後6時からの横浜ベイスタジアム対阪神タイガースの試合では、両球団選手がヘルメットに赤十字のPRシールをつけてプレー。試合開始前のオーロラビジョンや場内アナウンスでも世界赤十字デーについての案内が流されます。

選手は赤十字のPRシールをつけてプレー

心からの寄付に感謝

訪問看護車3台 こすもクラブ から贈呈

本 社

ボランティア組織のシャングアールCMSこすもクラブから3月25日、3台の訪問看護車両が日本赤十字社に贈られました。



日赤本社前で行われた贈呈式

こすもクラブは「宇宙貯金の箱」に寄せられた寄付金などから毎年、日本赤十字社に訪問看護車や車いす、被災地への義援金などを贈っています。今年贈呈された車両は、福島、浜松、柏原の各赤十字病院に配備されました。

奉仕団支部指導講師がまごころの50万円 福 井

「赤十字事業に役立ててほしい」と話しています。赤十字奉仕団福井県支部指導講師で今年米寿を迎える郡谷いさをさんが4月3日、福井県支部に50万円を謝を述べました。



寄付を手渡す郡谷いさをさん

クローズアップ ひと

「災害が起きたときに大切なのはまず自分の身を守ることで、そして家族の安全を守ることで、そのためにも救急法などをみなさんにも知ってほしい」

こう語る2人は千葉県多古町でこのほど防災ボランティア地区リーダーに認定された野々宮恵さんと木川千紗都さん。今春高校を卒業したフレッシュな女性リーダーです。



赤十字防災ボランティア地区リーダー
野々宮恵さん(左)、木川千紗都さん

「将来は医療関係の道に進みたい」という2人が地区リーダーになったきっかけは、教室内に張られていた「赤十字救急員養成講習」のパンフレット。野々宮さんから木川さんに声をかけました。

大切なのは 地域のコミュニケーション

とが大切。地域の中で一人ぼっちの人を作らないことも大切だと思いました。(野々宮さん)



大人に混じっての講習は緊張の連続でした

社会的には広く存在が知られていない防災ボランティアですが、2人は「若い世代の防災ボランティアが増えるよう、地域で頑張っていきたい」と思っています。抱負を語ってくれました。

Voice & 懸賞クイズ

「赤十字新聞」では今月号から、紙面を通じて読者交流をはかる「Voice&懸賞クイズ」のコーナーをスタートさせます。

◆クイズの解答と併せて、日本赤十字社の活動について感じること、各地で最近取り組んだイベント、「赤十字新聞」へのご意見などを100〜200字程度にまとめてお寄せ

「赤十字新聞」にみなさんの声をお寄せ下さい

今月号のプレゼント



赤十字のオリジナルお箸セット 3名様に

「私の献血体験」といった手記や「わが奉仕団のアイドル」などの人物紹介もOK。「こんな記事が読みたい」という新聞への要望も大歓迎です。お寄せいただいたご意見は毎月数人分ずつ「Voice」欄に掲載します。

◆クイズの正解者には抽選で毎月レアモノの赤十字グッズをプレゼントします!

というわけで、第1回目のクイズです。ヒントは「赤十字新聞5月号」のどこかに隠れています。

5月号懸賞クイズ(カタカナで解答)
問題① 赤十字広報特使の藤原紀香さんが訪問したケニアで最高級のありがとうを意味する言葉は?
答え □□□□
問題② 松江赤十字乳児院(島根県)で乳幼児の家庭に配布して大好評なものは?
答え □□□□□□□□
問題③ 赤十字奉仕団福井県支部指導講師で今年米寿を迎える郡谷いさをさんが4月3日、福井県支部に50万円を謝を述べました。

◆「Voice」とクイズ解答の応募方法
クイズ問題①②の解答にご意見や感想を添えて、葉書、FAXまたはE-mailでお送り下さい。応募締め切りは5月14日(必着)です。お名前、連絡先(住所、電話番号)も忘れずにお願ひします。

「訂正とお詫び」
「赤十字新聞」2009年4月1日号5面左下の「赤十字ボランティア」の写真キャプションに誤りがありました。「救済金の募金活動を行う青少年赤十字奉仕団員(埼玉)」とありますが、正しくは「(秋田)」です。訂正し、お詫びします。

「訂正とお詫び」
「赤十字新聞」2009年4月1日号5面左下の「赤十字ボランティア」の写真キャプションに誤りがありました。「救済金の募金活動を行う青少年赤十字奉仕団員(埼玉)」とありますが、正しくは「(秋田)」です。訂正し、お詫びします。

中国

中国大地震発生から1年 本格化する学校 病院の再建支援

2008年5月12日に発生し、死者69,227人、行方不明者17,923人以上、という未曾有の被害をもたらした中国大地震から1年。被災地では今まさに、日本赤十字社による学校、病院の再建が本格化しています

日本赤十字社は地震直後からテントなどを緊急輸送し、冬には、簡易な一時的住居で厳しい冬を迎えた被災者に、布団や防寒服を届けてきました。

そして、昨年10月からは四川省成都に駐在



プレハブの宿舎の外で給食を食べる生徒たち。十分な食堂スペースがないので、立って食べられる麺類が主なメニュー

員を派遣し、中国紅十字会(中国の赤十字社)、国際赤十字と現地で連携しながら、緊急救援から復興支援へと、切れ目のない支援に取り組んできました。

この地震の発生から1年が経とうとしていますが、現在もなお、被災者の暮らしは厳しい環境にあります。子ども達は元気な笑顔を見せてくれますが、被災した学校の校舎は取り壊され、生徒たちは仮設のプレハブ校舎で授業を受け、狭いプレハブ宿舎で生活しています。

また、病院も多くの施設が仮設のプレハブや民家などを間借りして、診療を続けています。簡易なプレハブ施設はどこも従来施設ほどの設備、収容能力がなく、寒い屋外で順番を待つ患者達や、空調のきかない仮設入院棟で新しい施設を待ち望む声などが聞かれました。

ナミビア・コロンビア

相次ぐ洪水被害を救援

ナミビア ザンベジ川

アフリカ南部のナミビアでは、道の両端に洪水で押し流されたベッドやラジオなどの日用品が積み重なっています。これらは大雨により堤防が決壊したザンベジ川周辺の村人の所持品だったものです。

被災した村に住むエスター・ムセタさんは赤十字ボランティアとしてエイズ感染者の家庭訪問看護に携わってきました。「所持品は持ち出せましたが、とうもろこし畑の収穫物は失いました。赤十字から浄水剤、ピニールシ



洪水で山積みになった日用品

これに対し、日本赤十字社は、被災した3つの省(四川省、甘肅省、陝西省)で学校14校、病院施設59カ所の再建を進めています。

2009年4月には3省それぞれにて最初の学校、病院の鋤入れ式が行われ、約1年の工期を経て完成する予定です。式典に参加した日赤駐在員は、ご寄付を下さった日本の皆様の想いを伝え、生徒達や病院関係者との交流も深めてきました。

ミャンマー

サイクロンの復興支援 エヤワディ管区の 小学校再建事業

2008年5月2日夜から3日未明にかけてミャンマーのヤンゴン付近を通過した大型サイクロンは、主にエヤワディ管区、ヤンゴン管区で、死者行方不明者13万人以上、被災者240万人という大きな被害をもたらしました。

発災から1年、現在では緊急救援に続く復興支援活動も活発化してきました。

日本赤十字社は、被災者の生計を立て直す支援、将来の災害に備えた防災活動支援、衛生教育などの保健分野支援、住宅や避難施設などのシェルター建設支援を、国際赤十字を通じて実施しています。

これらの事業は、ミャンマー赤十字社の職員・ボランティアの手により実施され、アクセスが困難なデルタ地帯のエヤワディ管区においても、毛細血管のように入り組んだ細い川を、手漕ぎのボートで進むなどして、多くの人に支援が届けられています。

2009年4月からは、ミャンマー赤十字社と日本赤十字社の二国間協力事業として、サイ



デルタ地帯で活躍するナルギス1号。復興支援活動の足となる

ート、水タンク、食料の提供を受け、助かりました」と話します。

ナミビア北部では2009年はじめから、洪水災害が発生しており、断続的な大雨により被害が拡大、約70万人が被害を受け80人以上が死亡、道路や橋梁のインフラや学校などにも大きな被害が出ました。



赤十字ボランティアのエスター・ムセタさん

コロンビア ミラ川

コロンビアでも、大雨が続き、ナリーニョ州を流れるミラ川が決壊、31,250人が洪水の被害を受け、1名が死亡、22名が行方不明となりました。コロンビア赤十字社は50名のボランティアを動員し、食料、台所セット、飲料水などの救援物資320トン配布しました。

日本赤十字社は年間を通じて、世界各地で起こる大小様々な災害の被災者を支援しています。

今回、ナミビアの洪水に対して約430万円を支援、コロンビアの洪水に対しては約310万円を支援しました。配布した物資の最備蓄、今後の防災活動などに役立てられます。



クロンで倒壊してしまった小学校の再建事業が始まりました。

トタン屋根、平屋造りの標準的な小学校に加え、被災状況に応じてサイクロンシェルターの機能を兼ねた鉄筋コンクリート造りの小学校を建設します。

これは、復興支援に加えて、将来起こりうる災害に住民が備えるためのものです。サイクロンシェルターが身近にあり、その利用法を伝えることで、安心して日常生活を送れるような環境づくりを支援していきます。

■ミャンマー赤十字社のボランティア、チット・オー青年■

20歳の元気あふれるチット・オー青年は、3年前からミャンマー赤十字社の救急法指導員・防災ボランティアとして親友のナイン・リン・トゥンと共に活動してきました。

5月3日の早朝、恐ろしく強い風、高潮、想像を絶するような豪雨が彼の村を襲い、家は崩れ、田は海のように、道は全て川



赤十字ボランティアのチット・オーさん

チットとナインは日ごろの訓練を活かし、嵐の中に飛び出しました。チットは田んぼの中で溺れている母親と3人の子どもの発見し救出、心肺蘇生を行い4人の命を救いました。

しかしそれは、チットの人生において最も恐ろしい夜でした。サイクロンは彼の住む村を瓦礫の山にただけではなく、彼の親友ナインの命も奪ったのです。

「僕は赤十字のボランティアを続けます。ナインのことを忘れないために」チットはいます。チットが村の人々に救急法を教え続けることで、亡くなった親友の人道精神は受け継がれていくと思うからです。

イタリア

イタリア
中部地震

避難所の被災者に イースターエッグを配布 ゲームやイベントも企画して

2009年4月6日イタリア中部を襲った地震は、死者298人、行方不明者15名(4月15日時点：国際赤十字発表)という被害をもたらしました。

イタリア赤十字社は、発災直後からレスキュー犬による行方不明者の捜索、怪我人の搬送、避難した人々へ毛布や食事を提供するなどの救援活動を行いました。

キリストの復活祭イースターの4月12日、避難民キャンプで9,000個のイースター・エッグ(チョコレートのお菓子)が配られました。

これは、イタリア赤十字社が災害でショックを受けた人々の気持ちを和らげるために行っているレクリエーション活動の一つです。

赤十字ボランティアにより、特にお年寄りや子ども達に楽しんでもらえるようなゲームやイベントが企画され、これはイタリア赤十字社が運営している6カ所の避難所とその他の避難所でも実施されています。

国際赤十字はイタリア赤十字社に対し、災害救援緊急基金*から約6,000万円を提供し、これらの救援活動を支援しました。

*突発的な自然災害の被災者救援活動を行う各国の赤十字社の活動を支えるために、国際赤十字の本部(ジュネーブ)に備えられている基金。日本赤十字社は同基金に対し、毎年2,000万円を資金援助しています。